



▲避難状況を確認する様子(渥美運動公園テニスコート駐車場)



▲避難場所を目指して走る訓練参加者

地域の話題

堀切校区

地震・津波に負けない地域づくり 校区と学校、家族との結束

6月26日(火)に、堀切校区と堀切小学校が合同で行った
地震津波対応避難訓練について
堀切校区「コミュニティ協議会からお便りが届きました。」



避難マップを作成

堀

切校区では、東日本大震災を教訓に、避難場所をより高い安全な場所に変更しました。昨年9月、主な避難ルートや各地点の海拔などを表示した地震・津波避難マップを、避難する際のルートがより詳細にわかるように「堀切東」「堀切西」「小塩津」の3地区に分けて作成しました。

15分以内の避難を目標に！

今回の訓練は、参加者の行動や感想などから問題点を探り、現状の地震津波対策の見直しや改善を図るため、堀切校区と堀切小学校との合同で行いました。



▲地震・津波避難マップ (堀切東地区)

東海、東南海、南海の三連動地震や南海トラフの巨大地震などが発生した場合、およそ20分で最大20分の津波が到達すると予測されています。堀切校区のほとんどが海拔5メートル帯。そのため、「全員15分以内で避難完了」と校区で目標を立てました。避難場所は、各地区で「渥美運動公園テニスコート駐車場」「寅之神社」「伊良湖岬中学校」の3か所の高台に設定し訓練を行いました。

地震・津波だ！さあ走れ！

午前7時5分、校区内に地震の発生を知らせるサイレンが鳴り、訓練がスタートしました。仕事や学校に行く支度をしていたお父さんやお母さん、子どもたちの手が止まり、家の中で落下物などから身を守ります。その2分後、「20分後に津波が来る」という放送が入り、各家庭一斉に指定された避難場所まで走り出しました。

小学生のほとんどは、学校で実施した避難訓練や放課の時間を利用した持久走訓練の成果もあり、目標の15分以内で避難できました。しかし、多くの大人は30分以上かかり、課題が残る結果となりました。

訓練を終えた参加者からは「これでは危ない。体力面の問題もあるが、各家庭でどのように避難すべきか話し合う機会が必要」「避難訓練の回数を増やさないと」などの感想が聞かれました。

被災者ゼロを目指して

堀切校区では、今後も地域と学校、家庭が連携したさまざまな避難訓練を継続的に実施し、防災意識の向上と津波被災者ゼロを目指していきたいと思います。